



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp



野崎学長 新年あいさつ (2面)

創立25周年 飛躍の年に!

上越教育大学と連携協定を締結 (8面)

日本経営学会・本学で初開催 (3面)

日中友好青年訪中団ツアー参加 (8面)

平成31年度一般入試日程の概要とポイント (7面)

編集部では表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。

PHOTO:「冬の使者」
情報システム学科 4年 穂苅 周平

CONTENTS

(2・3面)

湧源・編集後記に代えて
新潟⇄ベトナム交流の翼
学長 使節団に参加

国際関係事業講演会
「日米の安全政策」

(4・5面)

本学と市・地元団体が連携
新潟砂丘遊々会
国際理解講演会「日本建築再考」

キャンパスからの提言フォーラム優秀賞
糸魚川復興マルシェ
うまさぎっしり・新潟食の大商談会
国際交流フェア 高校生英語スピーチコンテスト

(6・7面)

ロボ活 in NIIGATA

国際学部スタッフセミナー
企業懇談会292社参加
平成31年度一般入試
教員の活動

(8面)

にいがたデジコングランプリ奨励賞



NUISホームページ
<https://www.nuis.ac.jp>
(スマートフォン対応)



Facebookページ
<https://www.facebook.com/nuis.face>



LINE@
[@nuis-line3111](https://line.me/tv/nuis-line3111)
LINEの「友だち追加」から
「ID検索」で登録



Twitter
[@nuis_rabbit](https://twitter.com/nuis_rabbit)



YouTube
公式
チャンネル

創立25周年 飛躍の年に!

新年
ごあいさつ



学長 野崎 茂

学生の皆さん、教職員、ご父母の皆さん、明けましておめでとうございます。清々しい気持ちで新たな年を迎えられることとお慶び申し上げます。

昨年4月私たちは国際学部の下に国際文化学科、経営情報学部の下に経営学科と情報システム学科という2学部3学科の新しい体制をスタートさせました。この改編は「国際化、情報化が進む現代社会において、環日本海地域の中核都市新潟で地域の発展に貢献できる人材を育成する」という建学の理念を全うし、より魅力的な大学になるようにと行ったものです。大きな成果が得られるものと期待しております。

そして本年6月、本学は創立25周年を迎えます。現在大学ではこれを記念しての事業企画を思案中です。何か形のあるもので現すとしたらこれまでの道のりを想い起こさせるような簡素なモニユメン

地域貢献の拠点化目指す 社会連携センター設立へ

トづくり、あるいは記念講演会なども考えられるでしょう。前述の「建学の理念」を分かり易い言葉で簡潔に表してみる、つまり大学の特徴や性格を表すキャッチコピーを作ってみるということも考えられます。そうしたことは若い学生の皆さんの鋭敏な感性が得意な分野かも知れません。いろいろなアイデアの提供も含め皆さま方の積極的なご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

皆さまご案内のとおり、大学には知的創造を担い教育・研究を通じて社会全体の共通基盤を形成するという大きな使命が課せられると共に、最近はその公共的役割の重要性という観点から「大学による社会貢献」が求められるようになって参りました。本学では早い段階からその

を声高に喧伝^{けんでん}することもなく地道に推進してこられた教職員の皆さん、そして一緒に参加してくださっている学生の皆さんに敬意を表し、感謝申し上げる次第です。

そのうえで、こうした活動を大学としても少し組織的に内外の関係者と連携し幅広く進めて行くことを考えるべきではないかという観点から、本年4月に本学新潟中央キャンパスに「社会連携センター」という組織を立ち上げることとしております。これまでも新潟中央キャンパスでは「エクステンションセンター」という組織名称の下、生涯学習活動としての公開講座などの各種事業に取組んできたところでありますが、この衣替えにより地域や産業界、経済界との連携を一層充実させて行きたいと考えているところであります。

そのために、この面でも皆さまから様々なアイデアをお寄せいただき、そして積極的なご支援やご協力をいただきたいと思います。このように本年は創立25周年という一つの区切りを迎える訳ですが、その記念事業としてはどちらかというと「ソフト」面を見直していくことで、本学の内面を充実させていくことに主眼を置くことになると思います。何とぞ宜しくご協力のほどをお願い致します。

さあ、今年も挑戦すべき課題がこのほかにも目白押しです。課題解決に向けて一歩一歩前進して行きましょう。いや、今年はひとつ突進して見ませんか。そう、今年「猪」年ですから。

湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員長 西山 茂

また入学試験のシーズンがやってきた。受験生にとっては憂鬱なシーズンであるが、実は私にとっても憂鬱なシーズンである。私は人に色を付けた選別をすることは得意でないし、好きでもない。できるだけそのような仕事は避けたいと思っている。しかし、大学の場合、受け入れられる学生数は限られており、そこにすべての希望者を受け入れてしまつたら、学生に対するサービスが低下してしまうことは明白である。これでは受け入れ側の責任を果たしたことになるまいと自身を論じてこのシーズンに臨んでいる。

入学試験とは若干異なるが、大学には定期試験という一種の選別の仕組みがある。定期試験でも、学生に色を付けた(得点)、選別(合否)をしなければならぬ。正直、好きではない。しかし、定期試験で学生に与える評価は、「よく勉強したね」、「もう少し努力が必要だね」、「このままではまずいよ。再度挑戦しなさい」という学生に対するフィードバックであるという思いで採点を行っている。「フィードバック」は、「教える」と同じくらい重要な教員の仕事であると思う。これは避けては通れない。

ところで、入学試験で毎年、筆記具、時計、果ては受験票を忘れる学生がいる。一体何をしに来ているのかと不思議に思う。生徒諸君、これらを忘れてきても受験の得点に直接影響はしないが、きちんと準備をすることに臨むということは、今後の人生の極めて重要なスキルであるということを肝に銘じて欲しい。文末ではあるが、頑張れ受験生!! 為せば成る、である。



日本経営学会 本学で初開催

翔委員を中心に学生13名を加えた体制で大会の運営にあたりました。全国から400名を超える会員が参加され、統一論題や各セッションでは積極的な議論がかわされました。

特別講演では、「新潟企業の一歩」地域との共存とグローバル展開」と題し

大会委員長 小林 満男(経営情報学部)

全国から400人超が参加

日本の経営の現在・未来を議論

日本経営学会第92回大会が、新潟国際情報大学(新潟中央キャンパス&ANAクラウンプラザホテル新潟)を会場として昨年9月5日から4日間にわたって開催されました。近隣大学の会員で大会委員会を構成し、本学より佐々木桐子大会事務局長、阿部聡委員、土田

で、4人の県内企業のトップから、企業の力や地域性、海外との関わりを中心に、各社の経営戦略、最前線の取り組みについてご講演を頂きました。日本経営学会は大正15年発足の歴史ある学会ですが、本州日本海側での年次大会は初めてで、また最も規模の小

さい大学での開催でした。経営情報学部経営学科のスタートの年に年次大会を担当させて頂いた縁を今後の経営情報学部の充実、発展につないでいきたいと考えています。

新潟 ⇄ ベトナム交流の翼

学長 使節団に参加



ハイフオン公立大関係者と意見交換する
野崎学長(右側中央)

産官学連携の実行委員会が主催する「新潟⇄ベトナム交流の翼」使節団の一員として本学の野崎茂学長が、昨年10月17日から5日間、ベトナムの2都市を訪問しました。ハイフオンでは市長、ハイフオン公立大学を表敬訪問。ハノイでは日系企業を視察し、交流イベントに参加しました。

を有し、高まるニーズに応えるため、日本語教育の拡充を強く望んでいます。会談では両校学長が大学の概要を説明し、教員や学生と意見交換を行いました。教員からは、交換留学やインターンシップについて質問があり、今後の関係構築に向けた強い意欲が感じられました。

ハイフオン公立大学を表敬訪問

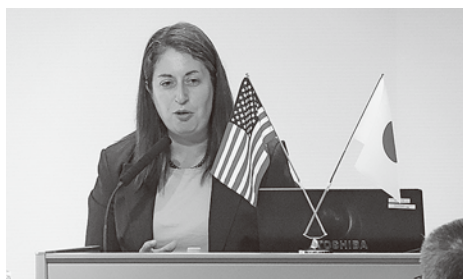
交換留学に強い意欲

ハイフオン公立大学は北部の港湾都市に位置し、約12000人の学生が学んでいます。「IT」や「経済」など本学と共通の学部

国際関係事業講演会

ジェシカ・バーロー氏(米外交官)

「日米の安全政策」を語る



講演するジェシカ・バーロー氏

昨年9月27日、新潟中央キャンパス講堂において米国大使館政治部安全

保障政策課書記官のジェシカ・バーロー氏による「日本とアメリカの安全政策について」と題する講演会が開催されました。

ほぼ満員の聴衆に対し同氏は現在の日米関係における諸事象について多面的な観点から説明されました。現役外交官のこうした発言に対する慣例として、具体的な内容をお伝えすることは避けませんが、現在の日米関係を考えるうえで非常に重要な視点を提供していました。聴衆からの質疑も具体的な論点に関連するものばかりで、質問に対するバーロー氏の返答も真摯かつ興味深いものでした。それらの意見交換もとても真剣なものとなりました。

また講演の終了後、バーロー氏は本学学生と直接歓談する時間を設け、個々の質問にも時間をかけて答えていました。学生にとっては米国への留学関連以外にも多くの貴重なアドバイスをもらえる機会となったと思います。

(国際文化学科

教授 越智敏夫

本学と市・地元団体が連携

新潟砂丘や佐潟が赤塚の人々の生活とどのように結びついているのかを学び、楽しむことを目的として、昨年6月に赤塚郷土研究会、赤塚・佐潟歴史ガイド、赤塚・中原邸保存会、佐潟と歩む赤塚の会の代表・会員及び本学の教員、学生を会員とする新

砂丘研究活かしてウォーキング シンポジウムで勉強会

げ、新潟市『水と土の芸術祭2018』の市民プロジェクトに参加しました。新潟市西区役所と地元の団体で作成した『赤塚ガイドブック』まち歩き&砂丘歩き』を活用し、赤塚の良さを発見し発信するため、砂丘ウォーキンググループの清掃、見晴らしの丘展望台への東屋設置、砂丘ウォーキングの実施、シンポジウム及びワークショッ

プを開催しました。

シンポジウムでは、本学国際文化学科の澤口晋一教授から新潟砂丘に関する最新の研究成果を皮切りに、日本フットパス協会理事の神谷由紀子氏及び路地連新潟・代表の野内隆裕氏による講演がありました。その後、地元団体の代表によるパネルディスカッションが行われました。

(新潟砂丘遊々会

事務局 小林 満男
情報システム学科 教授



設置した見晴らしの丘「遊々亭」からの景観

邱明民氏「日本建築再考」



日台交流への思いを語る邱明民氏

昨年11月17日、財団法人大河文化基金会理事長・邱明民氏による「日本建築再考」をテーマとした国際理解講演会を新潟中央キャンパスで開催しました。

なぜ日本の古民家が台湾に移築できたのか

日本では維持できなかった古民家を、台湾に移築し維持することがなぜ可能なのか。ただ保存するだけで

はなく映画を制作し国際的に建物をアピールする氏の手腕に、「いかに建物を活かすか」という「経営」の発想が私たちに欠けているのではないかと気づかされました。

来場者からは「先生の意欲にとっても感動した。現地に行ってみよう」「新潟でも古民家の魅力を再興できるように頑張りたい」「日台交流のため

に先生を応援したい」という、今後の日台交流、新潟の国際観光振興につながる力強い声を頂きました。

(国際交流委員長 小宮山 智志
経営学科 准教授)

キャンパスからの提言フォーラム

田中祐多さん(情報システム学科)が優秀賞

社会問題の解決策を提案して、よりよい新潟市の実現に貢献するため、昨年8月26日新潟市役所で開催された市主催の「キャンパスからの提言フォーラム」に参加しました。

私は就活が堅苦しいこと、わずかな時間の面接で落とされることにストレスを感じ、企業側には、求める人材と受験する学生の不一致にストレスがあることが分かりました。

「ジョー活」で就職ストレス解消を提案

「就活頑張り隊」を結成し、若者の「就活ストレス」を解消する取り組みの提案を目指しました。

若者が就活のどこにストレスを感じているのか、そして企業のストレスは何なのかを把握するためにアンケート調査を実施。その結果、若者

と会社説明会を組み合わせ、学生と企業がお互いを深く知ることができ「ジョー活」を提案し、優秀賞を受賞しました。

新潟市の雇用政策担当の方にも評価していただき、雇用政策の改善に学生側からのアドバイスを求めたいと



プレゼンする筆者(左端)

(情報システム学科
4年 田中 祐多)

のお言葉をいただいたので、今後も積極的に関わっていきたいと思います。

糸魚川復興マルシェ

私たち経営学科1年生基礎ゼミナール2（担当・藤田美幸准教授）受講者11人は、昨年12月8日に新潟中央キャンパスで糸魚川市の物産販売を行いました。事前に販売のノウハウや糸魚川市について学ぶため、10月19、20日に同市を訪れ、地域貢献に力を入れている能水商店と一印かまぼこ屋を見学し、担当者話を聴いてきました。

特産品販売で被災地応援 実を結んだ現地視察・研修

（経営学科1年 渡邊 菜々）

12月の物産販売会では、直接現地の人やモノに触れて体験したことをお客様に伝え、糸魚川に足を運んでもらえるよう呼び掛け、特産のゲンギョや蒲鉾など実際の物産販売に活かすことができました。

経営者の方は皆さん地元の良いことを伝えたい、元気にしたいという気持ちにあふれていました。また会社経営で知識だけでなく、支え合いと感謝の気持ちは何より大切だと感じてきました。

能水商店の松本将史さんは「お客様は『商品が何から作られているか』ということよりも、『どう使うのか』ということに関心があります。商品は作るのとより売ることの方がずっと難しい」と語っていました。



一印かまぼこ屋代表者の話を聞くゼミ生

藤田美幸ゼミ10人が参加

うまさぎつしり：新潟食の大商談会

商品に込める

企業バイヤーの想い学ぶ

人が学生サポーターとして参加しました。学生サポーターの役割は、当企業を事前に訪問して、企業理念や商品のマーケティング戦略を理解し、商談会当日にブースを訪れるバイヤーへの販売促進

は、「企業が商品に込める想い」と、「バイヤーのニーズ」を的確に理解することの大切さです。企業がこの商品売りたいたいのなにか、またバイヤーは何を求めている商談会に来るのか、どちらも理解しなければ、うまく売り

にいがた産業創造機構（NICCO）主催の「うまさぎつしり新潟・食の大商談会 in 池袋」が昨年9月7日、東京・池袋サンシャインホールで開かれ、私を含む藤田美幸ゼミナールの10

進を手伝うことでした。私は野澤食品工業を担当し、味噌・しょうゆをメインに企業のバイヤーに商品を紹介しました。私は商談会への参加を通じて2つのことを学びました。それ



食の大商談会 味噌をバイヤーに紹介する筆者（左）



スピーチコンテストで表彰された高校生たち

国際交流フェア・スピーチコンテスト

6校6人が「新潟の未来」をスピーチ

国際交流フェアが昨年10月28日、新潟中央キャンパスで開催され、第4回新潟県高校生英語スピーチコンテストと本学学生による交流会が行われました。スピーチコンテストはこの日が本選で、

一次選考を通過した県内6校6人が「あなたが描く『新潟の未来』」をテーマに、5分以内のスピーチを行いました。審査は発表内容、英語での質疑応答などの総合評価によって行われましたが、いずれも素晴らしい

テーターの進行で交流会が行われました。参加者は6チームに分かれ、聖徳太子ゲームや伝言ゲームなどで交流し、ファシリテーターの学生と一緒に、各国の珍しいお菓子を食べながら留学の体験談や異文化理解について歓談しました。参加した高校生には、本学の多様な留学制度や留学の楽しさを伝えることができました。

しいスピーチで、本学国際文化学科の小林伊織講師（審査委員長）らによる審査の結果、最優秀賞1名、優秀賞2名などが決まりました。審査の間、本学学生の国際交流ファシリ

込むことが出来ないからです。商談会でしか学べない貴重な経験だと感じています。この学びを活かし、今後も経営学の勉強に一層励んでいきたいと思っています。（情報システム学科3年 斉藤 優雅）

ロボ活 in NII-GATA

講演とプログラミング教室開催

ロボットを地域活性化につなげる「ロボ活 in NII-GATA」が昨年11月23日、本学などが主催して県立自然科学館で行われました。

第1部では、ロボットクリエイター高橋智隆さんが「ロボット時代の創造」と題して講演し、約200人の聴衆に「5年以内に一人一台小型ロボット端末を持ち歩く未来が来るようにしたい」と語りました。

必修化に備え小学生も挑戦

第2部では、小学校高学年を対象にしたプログラミング教室が行われ、30人が参加しました。20cmくらいのモバイル型ロボット「ロボホン」の動作を、人が参加しました。イル型ロボット「ロボホン」の動作を、「歩く」「しゃべる」などの機能を持つたブロックを組み合わせてプログラミングしました。「佐渡おけさ」の音楽に合わせた振り付けなどを作成するグループワークを行って発表し、1チームに優秀賞を贈呈しました。

2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化されることもあり、講演もプログラミング教室も大盛況でした。



プログラミングに挑戦する小学生を見守る筆者(真ん中が動かすロボット)

況でした。本学でも数年前から小学生向けプログラミング教室を開催しており、今後の参考にしていきたいと思っています。

(情報システム学科
講師 河原和好)

国際学部 スタッフセミナー

国際学部では、教員・研究者間の研究・教育に関する情報交換とその質的向上を目的として、スタッフセミナーを毎年開催しています。

今年度は、以下の講師とテーマで、10月までに4回実施しました。

× ×

第1回(7月18日)・・・小田紀子氏(本学国際文化学科教授)「人の移動から見るフ

多彩なテーマで4回開催

ランス・アルジェリア関係史―脱植民地化と『引揚者』の中心に」

第2回(9月24日)・・・平田オリザ氏(劇作家・演出家)「広場と対話のレッスン―対話とアートで地域をつくる」

第3回(10月19日)・・・佐藤大介氏(ノーニクス・アジアフォーラム・ジャパン事務局長)「脱原子力の東アジア国際ネットワークの展開」

学外からも講師を招へい

第4回(10月24日)・・・藤本直生氏(本学国際文化学科准教授)「世界のティームティーン―マーケティング、マイクロ、メン視点からのパートナーシップの分析」

今後は、引き続き学外から講師を招へいするとともに、ここ数年で国際学部新たに加わった教員たちによる研究発表を行う予定です。

(国際文化学科 講師 山田裕史)

- 藤田 美幸(経営学科・准教授)**
・(2018年9月22日～23日)「ハイブリッドまちあるきによる地域資源のり・パス」CODE for JAPAN SUMMIT 2018 (新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)
- 藤本 直生(国際文化学科・准教授)**
・(2018年9月5日～8日) David Coulson & John Adamson & Naoki Fujimoto-Adamson "Supervisory practices in English-medium under/postgraduate thesis writing" 8th Independent Learning Association Conference 2018 (Konan Women's University, Kobe, Japan)
- アレクサンドル・ブラーソル(国際文化学科・教授)**
・(2018年9月7日)「日本の医療・福祉制度」(ロシア・ウラジオストク市 沿海州中央図書館)
・(2018年9月9日～13日)「科学から見る日本人の起源について」ロシア政府主催 東方経済フォーラム (ロシア・ウラジオストク市 極東連邦大学)

3) 競争的資金獲得研究

- 小宮山 智志(経営学科・准教授)**
・(2018年10月より継続～2019年2月)「商店街を活用した、住民参加による地域の活性化に資する」調査研究業務委託 魚沼市内中心市街地商店街における「賑わいの創出」という課題に対して、大学生と小出地域商店街若手有志による「魚沼職人大学」が一体となって、集客を目的としたイベントを実施
- 佐藤 若菜(国際文化学科・講師)**
・(2018年10月より継続～2022年3月) 国立民族学博物館：共同研究「伝統染織品の生産と消費：文化遺産化・観光化によるローカルな意味の変容をめぐる」研究分担者

4) 委員・社会的活動・記事・その他

- 安藤 潤(国際文化学科・准教授)**
・(2018年10月28日) Discussant @ the 17th International Conference of the Japan Economic Policy Association
Speaker: Hiroyoshi Kasahara

Title: Approach from Growth Accounting in Macroeconomic Fluctuation
(慶應義塾大学・湘南藤沢キャンパス)

- 内田 亨(経営学科・教授)**
・(2018年11月13日)「働き方改革と健康経営」経営品質学習会 (新潟県経営品質協議会)
- 越智 敏夫(国際文化学科・教授)**
・(2018年8月31日) 新潟市長選候補者公開討論会、企画、司会 (新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)
・(2018年10月28日) 新潟市長選テレビ解説 (UX新潟テレビ21)
- 上西園 武良(情報システム学科・教授)**
・(2018年10月25日～26日) 燕三条ものづくりメッセでの講演・ブースでの展示：人間工学の活用 (燕三条地場産業振興センター)
- 小林 満男(情報システム学科・教授)**
・(2018年11月13日) 西川流域子ども環境サミット・総括コメントータ (西川多目的ホール)
- 佐藤 泰子(国際文化学科・英語講師)**
・(2018年8月31日) 福祉にいがた『オアシス21』第89号P14「『実践講座』学んだ英語力で留学生らと交流」(社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会)
- 佐藤 若菜(国際文化学科・講師)**
・(2018年10月1日) 専門社会調査士 取得
- 藤田 美幸(情報システム学科・准教授)**
・(2018年11月19日) 新潟コンベンション協会主催 平成30年度 地域内連携もてなし推進事業検討ワーキング委員会 (新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)
・(2018年11月29日～12月2日) 公益財団法人 全日本スキー連盟：独立行政法人 日本スポーツ振興センター委託事業「女性アスリートの強化支援」(女性アスリートの競技大会等プログラム)：SESSION2 (宮城県 東北クエスト)
- 藤瀬 武彦(経営学科・教授)**
・(2018年10月13日～14日) 第30回全日本ベンチプレス選手権大会 審判及び陪審員 (ディスポート南魚沼)

企業懇談会に292社参加

企業、団体の採用担当者らと本学教職員が情報交換する平成30年度「企業懇談会」が昨年11月21日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開かれ、22回目の今年度は292社から461人が参加しました。

就職・採用情報を交換 さらなる支援を要請



活発な情報交換が行われた懇親会

冒頭のあいさつで野崎茂学長は「来年創立25周年を迎え6000人を超えた卒業生が皆様の企業で活躍しております」とお礼の言葉を述べました。

講演会では、ピアニスト辻井伸行氏の母親の辻井いつ子さんが「明るく、楽しく、あきらめない生き方」と題して講演し、「前例がないから無理という周囲の言葉に負けず、チャンスに前向きに取り組んで」と語り、仕事にも活かせる大事な姿勢を学ぶことができました。

懇親会では藤瀬武彦キャリア支援委員長（情報システム学科教授）が本学の就職概況を説明し、星野元理事長が参加企業にさらなる支援を要請しました。このあと人事担当者や教職員は、採用計画や卒業生の近況を話し合い、懇親を深めました。

平成31年度 一般入試日程

詳細は「平成31年度入学試験要項」または本学ウェブサイト(<http://www.nuis.ac.jp/>)でご確認ください。

募集学部 国際学部 国際文化学科 経営情報学部 経営学科・情報システム学科

すべてインターネット登録を利用した出願です

入試区分	出願期間		試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格発表日	入学手続期間
	インターネット出願登録	出願書類提出					
前期	平成31年1月7日(月)～1月21日(月) 15:00まで	平成31年1月7日(月)～1月22日(火) 【郵送必着】	平成31年2月2日(土)	新潟 越前 長岡 新発田	国語 数学 外国語 2科目以上選択	平成31年2月9日(土)	平成31年2月9日(土)～2月15日(金)
大学入試センター試験利用	平成31年1月28日(月)～2月9日(土) 15:00まで	平成31年1月28日(月)～2月12日(火) 【郵送必着】	平成31年1月19日(土)、20日(日)の大学入試センター試験を受験していること		各学部・学科の利用教科・科目の中から2科目以上選択	平成31年2月22日(金)	平成31年2月22日(金)～3月1日(金)
後期	平成31年2月25日(月)～3月2日(土) 15:00まで	平成31年2月25日(月)～3月4日(月) 【郵送必着】	平成31年3月9日(土)	新潟	国語 数学 外国語 2科目以上選択	平成31年3月15日(金)	平成31年3月15日(金)～3月22日(金)

入試のポイント

一般入試(前期・後期)で第3志願制を導入!!

第1志望の学部・学科が合格にならなかった場合には第3志望までの学部・学科で合否判定を行います。

一般入試(前期)で学費給付奨学生を採用!!

一般入試(前期)の試験結果から、成績上位者に、半期授業料の半額を給付します。奨学金試験を受ける必要も、事前に申請する必要はありません。 ※每学期終了時ごとに審査あり。

給付額	給付対象		
	国際学部	国際文化学科	上位3名
半期授業料の半額	経営情報学部	経営学科	上位3名
		情報システム学科	上位2名

教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

上西園 武良(情報システム学科・教授)

・(2018年9月) "Reducing the Pulling Force on Plastic Bag Rolls", Proceedings of the 20th Congress of the International Ergonomics Association (IEA2018), vol.7 (24-32)

白井 健二(経営学科・教授)

・(2018年10月) "Characteristic similarity of production key elements greatly affecting profit of a productive business", International Journal of Innovative Computing, Information and Control Vol.14 No.5 (1929-1946)

佐藤 若菜(国際文化学科・講師)

・(2018年11月) 「中国本土・台湾の漢族に関する一九九〇年代以降の親族研究：女性に着目した新たな動き」『社会人類学年報』No.44 (131-146頁)

神長 英輔(国際文化学科・准教授)

・(2018年10月5日) 「ロシア極東と一帯一路」ワンアジア財団・寄付講座『アジア共同体の形成と一帯一路』(東京大学・教養学部)

・(2018年10月27日) 「黒船はロシアから 越後人と北洋漁業の発展」新潟開港150周年記念講演会『開港150周年 いがたの黎明』(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)

・(2018年11月4日) 「近代東北アジア諸地域におけるコンブ漁業の比較研究」中央大学政策文化研究所主催「公益財団法人 JFE21世紀財団後援」シンポジウム『アジア文明の21世紀的意義とその再評価のための基礎研究』(中央大学・駿河台記念館)

上西園 武良(情報システム学科・教授)

・(2018年10月20日) 井上智栄美(本学4年) 「キーボードの誤タイピング低減に関する研究(第7報: アイソレーション型の効果確認)」日本人間工学会東海支部2018年研究大会(三重大学)

・(2018年10月20日) 金澤諒(本学4年) 「トングの使い易さ向上に関する研究」日本人間工学会東海支部2018年研究大会(三重大学)

小宮山 智志(経営学科・准教授)

・(2018年9月29日) 「支え合いの気持ちを持ち寄ろう」西区『支え合いのしくみづくり』研修会(黒埼市民会館ホール)

佐藤 泰子(国際文化学科・英語講師)

・(2018年9月12日～13日) "The Case Study of MOOCs for College Students in Japan" International University carnival on E-learning International University carnival on E-learning INTERNATIONAL LEARNING, TEACHING AND TECHNOLOGY CONFERENCE (ILTEC) 2018 (International Islamic University Malaysia)

佐藤 若菜(国際文化学科・講師)

・(2018年10月19日) 司会: コメンテーター(英語): Prof. Mei-Ling Chien "Life Historical Narrations and the Framing of the Subjectivity and Identity of the Rural Immigrants in East Guizhou (1930-2010)" 京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「中国と東南アジアにおける政治経済的変容と女性の移動」第2回研究会議(京都大学)

瀬戸 裕之(国際文化学科・准教授)

・(2018年9月15日) 「内陸国ラオスにおける戦争と戦後一地域住民の経験を中心に」異文化塾「変貌する東南アジア世界」(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)

2) 学会・研究会・講演等

内田 亨(経営学科・教授)

・(2018年9月9日) Remy Magnier-Watanabe "Organizational Virtuousness, Happiness, and Job Performance among French and Japanese Employees: A Structural Model" 国際戦略経営研究会第11回年次大会(国立大学法人電気通信大学)

區 建英(国際文化学科・教授)

・(2018年10月6日～7日) 「丸山真男對中國現代性的看法」国際学会『東亞儒學與中國現代性』(台灣清華大學)

・(2018年10月8日) 「獨立自尊與他者感覺-日本近代的最佳思想」東亞學講演(台灣師範大學東亞系)

・(2018年10月9日) 「福澤諭吉與丸山真男的思想傳承」日本思想史講演(台灣大學國發所)

・(2018年10月10日) 「丸山真男思想史學的軌跡」日本思想史學講演(台灣中央研究院)

越智 敏夫(国際文化学科・教授)

・(2018年9月9日) 「いかがわしい文化と、文化のいかがわしさについて」新潟市美術館シリーズ・レクチャー『美術と世の中、とか外』(新潟市美術館)

上越教育大学と連携協定を締結



協定書を掲げる上越教育大川崎学長(左)と野崎学長

兼副学長、大庭重治理事
兼副学長が出席しまし
た。

本学は昨年10月11日に上越
教育大学と「連携・協力に関
する協定」を締結しました。

今回の協定締結を契機
に、本学で語学や情報処
理などの専門性の高い知
識を身につけた学生が上
越教育大学大学院へ進学
し、教員免許状を取得す
ることで、今後、小学校
で本格的に導入される
「英語」や「プログラミング」などに対応できる
教員となることが可能に
なるなど、有為な人材の
育成につながることを期待さ
れます。このように教員を目
指す本学の学生が、上越教育
大学大学院に進
学しやすい環境

資源の相互活用目指す

大学大学院に進
学しやすい環境

本学教員志望者に道開く カリキュラムの共同開発も

この協定は、本学ならびに上
越教育大学が教員養成、教育、
研究等における人的・物的資
源の相互活用などの連携協力
を推進するとともに、両大学
の理念や特色を活かした活動
を通して、我が国及び地域の
発展に寄与することを目的と
するものです。

を整理、両校の施設や設備を
相互に使えるようにするほ
か、教育カリキュラムの共同
開発や両校の教職員の勉強
会、一部の単位免除などを今
後検討する予定です。

本学大会議室で行われた締
結式には、本学の野崎茂学長
や星野元理事長など計6人が
出席し、上越教育大学からは
川崎直哉学長、梅野正信理事

また、この協定に基づき上
越教育大学大学院に進学する
場合、大学院入試において筆
記試験の免除や入学金の半額
が免除されるなどのメリット
があります。詳しくは、本学
事務局までお問い合わせくだ
さい。

日中友好青年訪中団

北京など4都市を訪問

交流推進への期待を実感

中華人民共和国駐新潟総領
事館主催の「日中友好青年訪
中団」の一員として昨年10月
24日から31日まで、ハルビン、
長春、大連、北京の4都市を
訪問しました。この交流は中
国の風景や人情、文化に触れ
て相互理解を深め、日中の将
来を担う青年同士の交流を促
進することが目的です。主な
内容は省政府の表敬訪問、大
学での交流、日系企業の視察、
文化観光です。私は日中の友好交流に関心が
あり、大学から推薦して頂けたこともあり参
加しました。



大連外国語大学の学生と意見を交わす筆者ら

現地の大学生との交流で
は、学生たちがとても流ちょうに自信を持って日本語を話
している姿が印象的でした。
また、各省の政府を訪問した
際、政府関係者が口にしてい
たのは、交流の重要性和将来
の日中友好を担う青年への期
待です。
今回の交流では、多くの貴
重な経験をし、素敵な出会い
にも恵まれました。このとて
も充実した一週間の経験を周りの学生に伝え
て共有し、日中の友好に少しでも貢献したい
と思います。
(国際文化学科 2年 宮下 凌)

にいがたデジコングランプリ

データ活用企画書コンテスト

駐車場アプリで奨励賞受賞



奨励賞を受賞する筆者

昨年10月15日、「にいがたデ
ジコングランプリ2018」
表彰式が新潟日報メディアシ
ップで行われ、私は「オーブ
ンデータ活用企画書部門」で、
応募数約800件の中から奨
励賞を受賞しました。このコ
ンテストは、デジタルコンテ
ンツ産業をリードする人材の
育成、発掘を目的としており、
今年度は「新潟の新たな魅力を
新発見する」というテーマが掲げられました。
アントレプレナーシップの醸成を目標にし
た講義「ベンチャービジネス」を受講してい
た同学科4年堤凜人さん、3年丸山拓巳さん

賞で、自分たちがゼロから企画したもののが認
められる喜びを感じることができました。

(情報システム学科 3年 渡邊 鉄郎)